

体育授業といじめの関連性についての基礎的調査研究

中西健一郎¹⁾・小澤治夫¹⁾・久米昭洋²⁾

The basic investigation on the relationship of the bullying and physical education class

Kenichiro Nakanishi, Haruo Ozawa, Akihiro Kume

Abstract

The present study aimed to make a survey on the relationship of the bullying and physical education class at Junior High Schools and High Schools. The study was conducted by a questionnaire.

The main results are follows:

- 1) 78% of the subjects regarded physical education class as the subject that bullying tends to occur
- 2) 33% of the subjects had witnessed scenes of bullying in physical education class on junior high school and high school days.
- 3) 60% of subjects who had experienced the bullying in physical education class regarded Ball-Game activity (Soccer ,Basketball) negatively, because bullying seems to happen.

Keywords: Bullying ,Physical Education Class, Relationship

1. 緒言

1.研究の動機

子どもは今も昔も、生きていくうえで自然に自分たちの世界を作るものである。そこでは、様々なトラブルが起こるが、それは、子どもが大人になるために必要不可欠なものであると考えなければいけない。子どもは、そのような関係の中で、自分を知り、他人を知り、人間関係そのものを身をもつて学んでいく。それは社会生活そのものであり、大人になるための一種のシミュレーションを行っているということもできる。現代社会では「いじめ」や「不登校」など様々な教育問題が報道などに多く取り上げられるようになった¹⁾。多様な社会においても未だ、これらの原因の多くは学校生活に関連しているのではないかと考える人も少なくない²⁾。学校生活において、授業の中でも特に生徒の身体活動上にお

ける接触が多いと考えられる「体育の授業」と「いじめ」の関連性に着目した先行研究は非常に少ないため本研究のテーマとした。

2.研究の目的

近年、社会の大きな変化の中で、子どもが大きく変わり、「いじめ」も大きな変化を見せている。本研究は、子ども同士の接触が最も多く、「いじめ」や「問題行動」にも発展しやすい場面が多いと推察される「体育の授業」に注目した。実際にそのようなことが体育の授業で起こっているのか、また、もし起こっているのであればどのような場面でどのようなことが起きているのか等をより細かい部分まで明らかにする。そして今後の教育活動における子どものいじめや問題行動を減らす一助となることを目的とする。

1) 静岡産業大学経営学部
〒438-0043 静岡県磐田市大原1572-1

2) 常葉大学教育学部
〒422-8581 静岡県静岡市駿河区弥生町6番1号

1) School of Management, Shizuoka Sangyo University
1572-1, Owara, Iwata-shi, Shizuoka

2) Tokoha University
6-1 Yayoicho Suruga-ku, Shizuoka

II. 研究方法

1. 調査対象

T大学体育学部 に在籍する大学生2年生から4年生まで181名を対象とした。

2. 調査期間

調査期間は2016年11月14日～15日の2日間で実施した。

3. 調査方法

質問紙法による調査を行った。質問紙は各授業担当授業の開始時に学生に説明を行い配布し授業終了後に回収した。

4. 調査内容

体育の授業の中で「つまづき」や「問題行動」についての実態を明らかにすることを目的として、「体育の授業」と「いじめ」の関連性についてのアンケートを実施した。内容は、以下に記したいじめが起りやすいと思われる教科に関する項目及び体育の授業の中でのいじめに関する項目8項目について回答を求めた。

- 1) いじめが起りやすいと思われる教科
- 2) いじめが起りやすい場面について
- 3) いじめの内容について
- 4) 今まで体育の授業の中でいじめとも捉えられる現場を目撃したかの有無
- 5) いじめが起きた種目について
- 6) いじめが起きた場面について
- 7) 体育の授業の中で友だちから不快と感じる行為を受けた、したことがあるかの有無
- 8) 受けた行為、した行為について

5. 統計処理

アンケートの集計はExcel 2010を用い、単純集計のみとした。

III. 結果

1. 教科特性との関連

図1.からも分かるように、181人中142人(78.0%)の人が「体育」と回答している。次に多かったのは、「音楽」で83人(48.0%)次いで、「保健」で54人(30.0%)、「美術」で48人

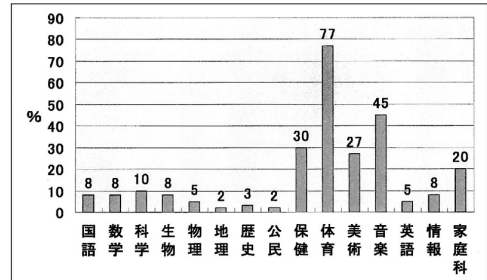


図1.いじめが起りやすいと思われる教科

(26.4%)。これら4教科が他の教科と比べて回答数が多かった。授業のどのような場面でどのような内容の「いじめ」や「問題行動」が起きると考えられるかを検証してみる。

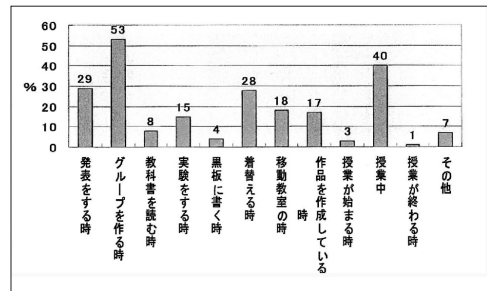


図2.どのような場面でおこりやすいか

どのような場面で「いじめ」や「問題行動」が起りやすいか(複数可)という質問をしたところ、授業の中で「グループを作る時」という回答が53%を占めた。クラスの中に特定の友だちがいなくてグループの中に入れない。グループを作る際、人数の制限がされて一人だけ残されてしまうといったケースが考えられる。次いで多かったのは、「授業中」、「発表をする時」、「着替える時」という回答が多かった。

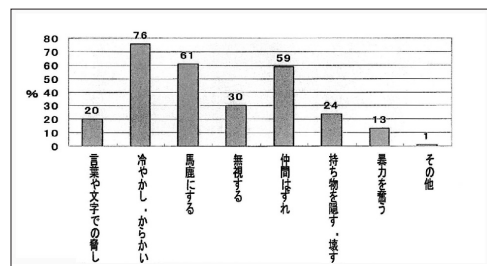


図3.どのような内容が考えられるか

どのような内容の「いじめ」や「問題行動」が起りやすいかという質問をしたところ、「冷やかし、からかい」という回答が75.3%を占めた。次いで、「馬鹿にする」、「仲間はずれにする」といった回答が多かった。図-2と図-3から、「いじめ」や「問題行動」は教師の日の行き届いている授業中でも起りやすいと考えられる。

2.「体育の授業」における実態

「体育の授業」において、発生している「いじめ」や「問題行動」に焦点を当て検証する。

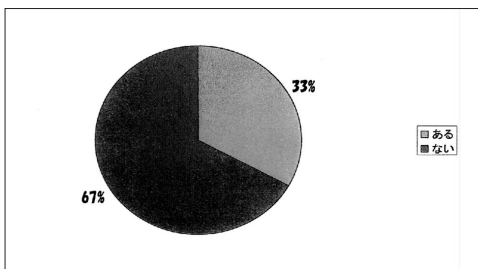


図4. いじめとも捉えられる現場を目撃したことがあるか

今まで「体育の授業」の中で「いじめ」とも捉えられる現場を目撃したことはありますかという質問をしたところ、あると答えた人が33%を占めた。あるとした回答者に、どのような授業の時に目撃したかという質問をしたところ、図-2を見て分かるように「球技」としたものは63%と6割を占めている。本件急の調査では、1番楽しく親しみやすいイメージのある球技の授業で6割も「いじめ」が目撃されていた。

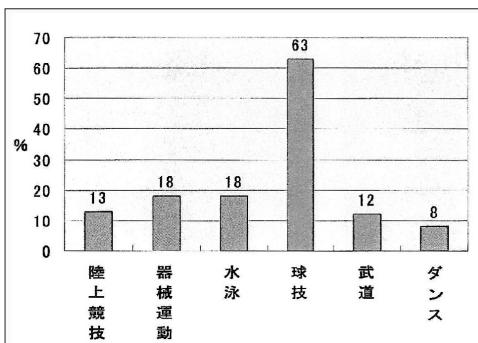


図5. どの種目で起きていたか

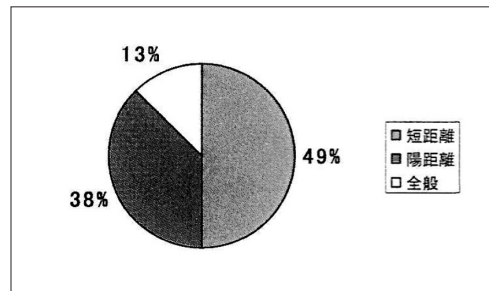


図6. 陸上競技での種目

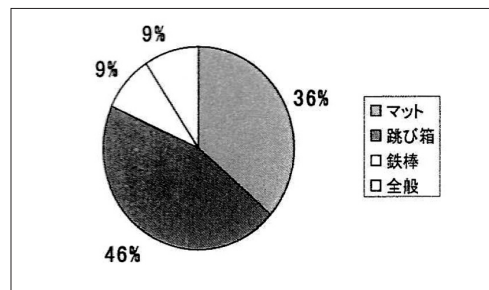


図7. 器械運動での種目

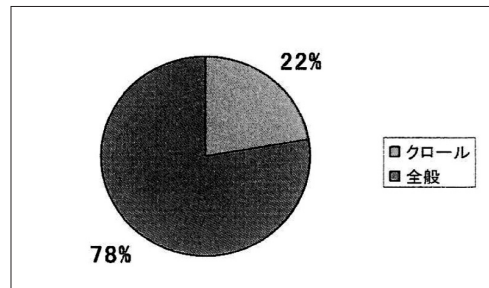


図8. 水泳での種目

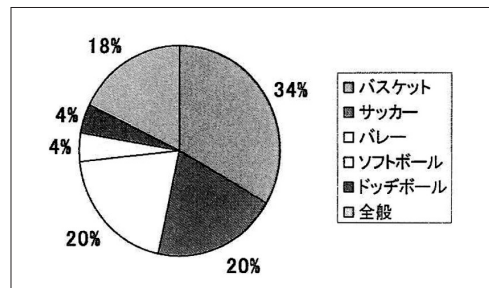


図9. 球技での種目

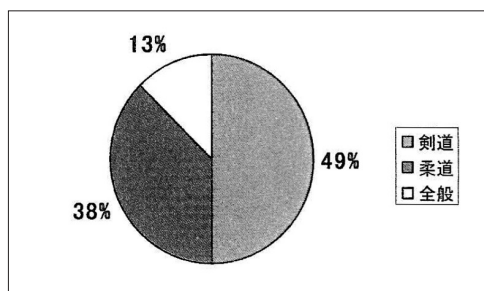


図10.武道での種目

それぞれの授業の細かい種目を記述形式で質問したところ、陸上競技では（短距離・長距離）、器械運動では（マット・跳び箱・鉄棒）、水泳では（クロール）、球技では（バスケットボール・バレーボール・サッカー・ドッジボール・ソフトボール）、武道では（剣道・柔道）等の種目が挙げられた。中でも球技のバスケットボールとサッカーについては約6割が「いじめ」とも捉えられる現場を目撃している。この2つの種目は団体競技で身体が接触しやすくファウルと判定するのも難しいと考えられる。また、ゲームの中でパスをもらえなかったり、パスと言われて取れないようなスピードのボールをぶつけられたりなどの仲間はずれや出来ない子に対しての集中攻撃が考えられる。実際にどのような場面で、どのような内容の「いじめ」や「問題行動」が起こっているのかが明らかになった上での対策が必要であると考えられる。

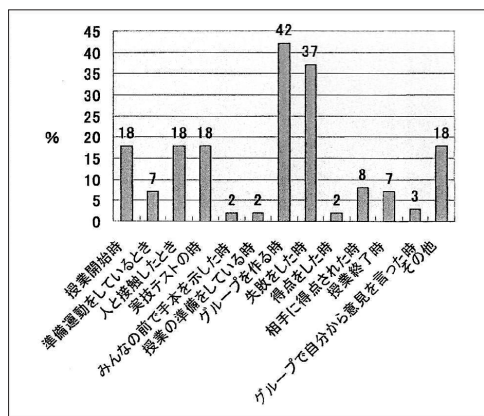


図11.どのような場面で起きていたか

どんな場面でしたか（複数可）という質問をしたところ、体育の授業に限定した場合、「グループを作る時」という回答が多く42%を占めた。次に多かったのは「失敗した時」で37%を占めた。「人と接触した時」や「実技テストの時」という回答は体育の授業に独特であると考えられる。また、その他の自由記述では「ゲーム中」「練習中」という回答が多く挙げられた。

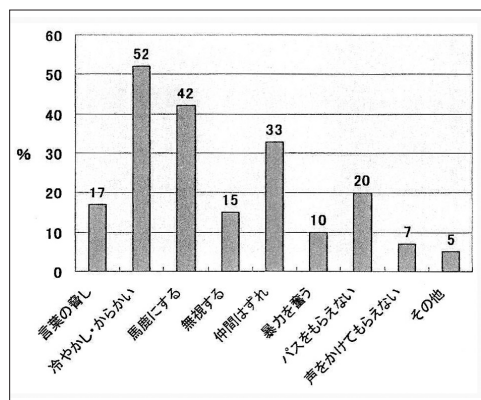


図12.どのような内容だったか

どのような内容でしたか（複数可）という質問をしたところ、多かったのは、「冷やかしからかい」という回答で52%を占めた。次に「馬鹿にする」「仲間はずれにする」という回答が多かった。また、その他の記述回答では、「パスと称してボールをぶつけられる」「動いていない人にボールをぶつける」といった暴力的な内容が目立った。このような結果から、「体育の授業」では「いじめ」とも捉えられる目撃の割合が数値として約3割も出た。他の教科に比べて、人と接触していたり、コミュニケーションをとる回数が多く、それらの人間関係が関与していると考えられる。どの教科においても「グループを作る」という行動は見受けられる。しかし、体育においては、そのグループ分けがゲームの勝敗に影響し、あの人とは合わないなどといった問題も生じてくるだろう。このような問題が起きないためにも、毎回生徒にグループを作らせるのではなく、あらかじめグループを決めておくことや授業の中で上手く分ける教師の行動や工夫

が問われるのではないだろうか³⁾。

また、内容においては人との接触やグループでの競技が多いため、わざとぶつかったり、足を引っ掛けるなどの直接的かつ暴力的な回答が多く挙がると予想していたが、冷やかしの、からかい、馬鹿にするなどの間接的もしくは陰険ともいえる回答の方が多かった。そこで、実際に授業の中で「いじめ」もしくは「不快」と感じられる行為を受けたことがあるのかを回答結果を用いて、友だちからというところに焦点を当てて検証してみる。

3.いじめの実態の検証

本項では、実際に「体育の授業」の中で友だちから「いじめ」もしくは「不快」と感じられる行為を受けたことがあるのか、またどのような内容であったのかを具体的に明らかにし、「体育の授業」における「いじめ」に関する改善策を導き出していきたいと思う。

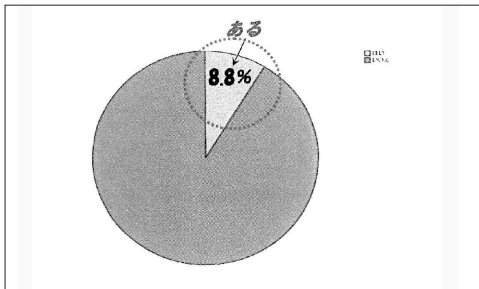


図13.友だちに不快と感じられる行為を受けたことがある

今まで「体育の授業」の中で友だちから不快と感じられる行為を受けたことはありますかという質問をしたところ、181人中16人があると答えた。体育学部生においても友だちから不快と感じられる行為を受けていたことが分かった。不快と感じられる行為とは具体的にどんな行為だったのか。

表1.を見ても分かるように不快と感じられる行為として「無視された」「仲間はずれ」「冷やかしの」「馬鹿にされた」という結果であった。さらにクラスの中で集中的に自分だけ行為を受けたという人が多かった。このような行為が行われないように、教師がどのように働きかけなければならないのかが見えてくる。

表1.友だちから受けた行為

- ・失敗を自分のせいにされた
- ・無視された
- ・ミスした後に文句を言われた
- ・仲間はずれにされた
- ・馬鹿にされた
- ・冷やかされた
- ・突き飛ばされた

※重複意見はひとつにまとめることとした

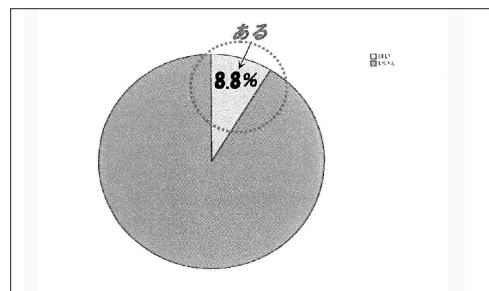


図14.友だちに不快と感じる行為をしたことがある

今まで「体育の授業」の中で友だちに不快と感じられる行為をしたことはありますかという質問をしたところ、181人中11人という結果であった。されたことのある人よりもしたことのある人の方が少ない結果となった。

表2.友だちにされた行為

- ・ボールをぶつけた
- ・仲間はずれにした
- ・無視した
- ・馬鹿にした
- ・つねった
- ・殴った
- ・しめ落とした

された行為に対してした行為では、暴力的な行為も少なくないことが分かった。

しかし、したことのあると答えた人のほとんどが、されたことのあると答えた人だという結果も明らかになった。どのような授業が、誰もが不快と感ずることなく一体感のある授業になるのだろうか。「いじめ」は被害者の感情の問題を中心に捉えられている。また、同一集団の中で起こり、ふざけかどうか分かりにくく、いじめられていても自尊感情や屈辱的などから本人が訴えにくいという事情もある。教師にとっては、この見極めが非常に難しいと考えられる⁴⁾。

教員の認識—テキスト分析によるカテゴリ化の試み,宮城教育大学研究紀要.第50巻 pp268-275,2015

- 4) 加藤弘道 いじめ被害の実態と教師への支援要請：通常学級と特別支援学校の双方に注目して.子ども発達臨床研究第8号, pp1-12,2016

V. 研究のまとめ

本研究では、「体育の授業」と「いじめ」の関連性について調査した。授業の中での「いじめ」の場面や内容を中心に検証し、その結果次のようなことが推察された。

- ① 「体育」はいじめが起こりやすい教科であり、「グループを作る時」「授業中」「着替える時」といった場面でいじめが起こりやすい。実際に33%の回答者が「いじめ」とも捉えられる現場を目撃していたことが分かった。
- ② 球技の授業で「いじめ」は起こりやすく、特に「バスケットボール・サッカー」と約6割が回答している。「下手だからパスをもらえない」「冷やかす、からかい」という行為が発生するケースが多い。

今後、より多くの対象者に調査を実施し、その結果から体育授業におけるいじめの根絶に貢献する資料作成が継続的研究課題として期待される。

vi. 参考文献

- 1) 久保順也 児童生徒間のいじめに対する教員の認識—テキスト分析によるカテゴリ化の試み,宮城教育大学研究紀要.第50巻 pp267,2015
- 2) 齊藤勉「いじめ問題」から授業・学校改革を考える 明治図書,pp23,1997
- 3) 久保順也 児童生徒間のいじめに対する